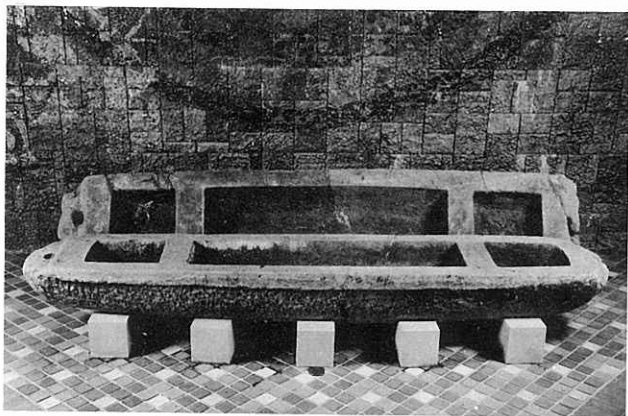


No.11

博物館報



熊本山古墳出土の舟型石棺（佐賀県重要文化財）

昭和38年11月、国指定史跡「帯隈山神籠石」に近接する佐賀市久保泉町久保の標高約56mの「熊本山」頂上の封土を有する古墳より発見されたものである。

この石棺は、石室などの外部施設を伴わず、主軸を北西-南東に向け、ほぼ水平の状態に埋置されていたもので、石棺の身・蓋ともに筑後川・矢部川流域に産する凝灰岩を用いて製作されたものと考えられる。

身と蓋は、ほぼ同大で全長 4.3mあり、棺の内外には製作時のノミの痕が残り、内部は手を加えこまかに調整され全面に朱が塗られ、身と蓋の目張りに漆喰が施こされている。さらに身の底部は、舟底形を呈し、ゆるやかな曲線をえがき、内部は、主室を中心に両端に各副室を設けており、その形態や構造はまさに舟型石棺の名称に最もふさわしいもので、全国にその例を見ないものとして注目されている。

副葬品は、主室に差合せの2体の人骨とともに、鉄剣2口・鉄刀1口が置かれてあり、北側の副室に最も多く収納され、鉄剣1口・鈿1個・短甲1具・鉄針1本・紡錘車2個・勾玉2個・管玉18個・小玉162個・四獣鏡1面、南側の副室から不明工具1個が発見されている。

この舟型石棺は、その構造および副葬品等から推定して、畿内地方の文化の影響を強く受けた5世紀前半の所産であると考えられる。



熊本山古墳出土の船型石棺	1
大門遺跡の発掘概況について	2・3
1972年カササギ分布調査報告	4
ジェームズ・アンソール展	5
教育資料展	6
県内博物館紹介・小笠原記念館	7
博物館日誌・行事紹介	8

大門遺跡の発掘概況について

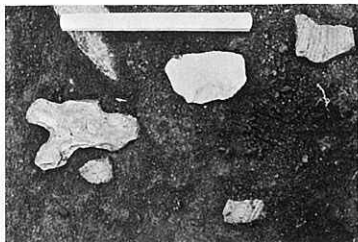
東西にのびる背振山系の有明海に面する南麓一帯は、縄文時代から古墳時代の遺跡が密集する地域として注目されている。

昭和47年3月、佐賀市金立町大門において家屋移転の際、縄文土器片・甕棺等が発見されたため、佐賀市教育委員会は4月と7月の2回に分け発掘調査を実施された。そこで県立博物館もこの発掘調査を全面的に協力した。

出土遺物は縄文時代前期に位置づけられる骨細系の土器・後期の御領系の土器、晩期最終末期に編年されるのではないかと推定される完形土器3個、全国的に出土例の少ない十字形の石製品と土製品や、配石を伴った特殊遺構が発見されており、西北九州の有明海沿岸の縄文時代を追求するうえに、欠かすことのできない貴重な資料といえよう。

さらに縄文時代の遺跡に複合して弥生時代の甕棺が存在し、弥生時代甕棺密集地帯の県東部よりはる、稀薄になる点が注目されていた金立町地域に、密集地帯が確認されたことは大きな成果といえよう。なお前期末から中期前葉に編年される甕棺群が大門遺跡に近接して発見され、さらに注目されている。

当館は調査期間中、現地において博物館教室を実施し、参加した中・高校生に発掘調査経験の機会を与えることができた。(学芸員 森 醇一朗)



十字形石製品出土状況



置石墓 (円形プラン・縄文時代)



カメ棺と人骨出土状況



遺跡遠景



発掘状況



博物館教室 (遺跡の説明)

大門遺跡出土繩文時代遺物



△ 十字形土製品



△ 十字形石製品



◁ 晩期縄文土器出土状況



△ 前期曾畑系土器



△ 後期御領系土器



△ 安山岩製石鏃

△ 黒曜石製石鏃

▷ 石匙



△ 安山岩製石鏃

△ 黒曜石製石鏃

1972年

カササギ分布調査報告

昨年について筑紫平野を中心に、福岡、長崎両県の協力をえて、分布調査を実施した。そのまとめを8月19日佐賀大学教養部、久保浩洋助教授が発表された。調査に参加された人は次のとおりである。

- 佐賀県 久保浩洋、江島竜也、江下基四郎、原 千秋、松尾安恵、筆者
 福岡県 桑野千年、土谷光憲、松藤将和、長岡博通、小林 実、野口宏男、大森和枝、木下博行
 長崎県 柿田周造、大野広宣

以上16名。実施調査域のうち福岡県久留米市をはじめ二日市、柳川、大牟田方面がとくに詳しい調査になった

1972年3~5月
 合同調査による
 カササギの分布



別表(1)、1972、分布調査域

ことは、松藤氏をはじめ、福岡県関係者の精力的な協力によるものである。

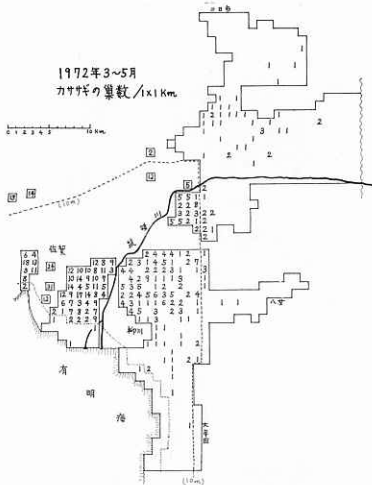
調査は3月中旬から5月上旬にかけて実施した。地区に次の記号を記入し、営巢の樹種地上からの高さも記録した。

- 印、現在使用中の巢
- ×印、古い巢
- ▲印、半完成の使用していないもの(巣づくりを中止したもの)

今回の調査域は別表(1)のとおりであるが、新しく確認されたところは、長崎県北松半島の御厨、同じく西彼杵半島西海岸の雪浦、有明海沿岸の小江の3地点である。最近、雪浦の北西方の海上にある松島でも、営巢していることが知られ、西彼杵半島までは数マイルもはなれた島に、どのようにして渡来したであろうかと、いろいろの疑問を投げかけている。別表(2)は、1平方キロ当の巢の数を標示したものである。二日市、大牟田方面には少く、筑後川をはさんで、西側が高い数字を示している。また、海岸に近い干拓地を含む新しい陸地では、営巢数が少い。これは人の住む集落が少く、営巢

に適する樹木が少ないためだろう。営巢する高さは場所により、地方によりまちまちである。大和町大願寺ではみかん園の中の桑の大木に、地上3メートルのところに営巢している。また筑後川下流の大中島と寺井を結ぶ高压電線の鉄塔には、地上約40メートルのところに巢がある。佐賀郡大詫間小学校前のサイレン鉄塔には、古果の上に新しい果をつくり、3階建アパートのような3段巢がある。本年は最上部の果だけしか使っていない。殆んど古果は使用しない。

筑紫平野東部に営巢が少ないことは、いろいろと解釈さ



別表(2)、営巢の密度、1平方キロ当巢数

れているが、工場用地、住宅用地として土地造成がすすみ、営巢に適する環境が少なくなったことが、その第一原因だろう。

山麓地帯に多くなったと聞くと、これは果樹の害虫の幼虫をカササギが好んでたべるためだろう。平野部では8、9、10月の非繁殖期に群をつくるカササギがみられる。その群のねぐらが、佐賀平野でもいくつか現存している。その代表的なものが、佐賀市本庄町、高伝寺の南にある竹ヤブと、神埼郡千代田町の墓地周辺の雑木林である。夕間迫る頃、四方、八方から三々、五々と幾十羽、幾百羽のカササギが集る。自然の変化の激しい今日若しこれらのねぐらが消滅した時点で、どのようにカササギの分布域が変わるかは、今後の大きな研究課題であろう。

(学芸課長 手塚 静雄)

展覧会紹介

ジェームズ・アンソール展

会期 4. 11. 14～12. 3

会場 佐賀県立博物館

主催 ベルギー文化庁／日本美術企画協議会／佐賀県／
佐賀県教育委員会／佐賀県立博物館／佐賀市／佐
賀市教育委員会／西日本新聞社

ベルギー生まれの画家であり版画家であったジェームズ・アンソール（1860～1949）は、今日、フォーヴィズム、表現主義、シュールレアリスムといった現代美術の主要な諸傾向の最も先駆的な開拓者として認められてい

る。」

今回展覧予定の約 140点の作品（油絵、エッチング、素描他）は、その生命感あふれる輝く色調、あるいは強度のデフォルメ、画面の幻想性などに見られるように、アンソールがいわゆる後期印象派の世代に属しながら、いかに独自の絵画芸術を志向していたかということを明らかにしてくれる。

さらにまた、アンソールの仮面と鬨闘は、われわれ自身の裡にひそむ諸々の多様性をあばいてじかに追ってくるであろう。（学芸員 三輪 英夫）



上も、下も、いたるところがペスト



グロテスクな喫煙者



仮面たちにかこまれた自画像

展覧会紹介

学制発布100年記念・教育資料展

主催 佐賀県立博物館

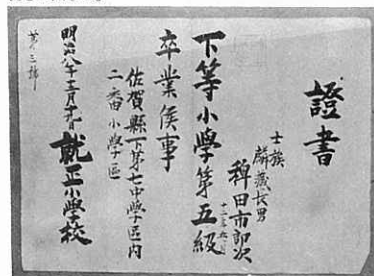
会場 佐賀県立博物館

会期 昭和47年12月2日～昭和48年1月18日

(12月28日～翌1月4日及び月曜は休館)

明治5年の学制(明治5年8月3日文部省布達第13号)は、わが国の近代的学校教育制度の確立をめざしたもので、今年はそれから100年を迎える。この間、わが国の教育の普及と発展はめざましく現在の義務教育の就学率は99.9%で、世界的にも極めて高い比率を示している。

当館では、学制発布100年を記念して、かつての藩校や私塾、寺子屋等の藩政時代の教育資料から昭和22年の新学校教育制度の発足に至るまでの諸資料を収集、展示し、これまでの本県教育の歩みを顧みるとともに、これからの佐賀県教育の向上発展に資するために、この資料展を企画した。



明治8年、下等小学第5級卒業証書

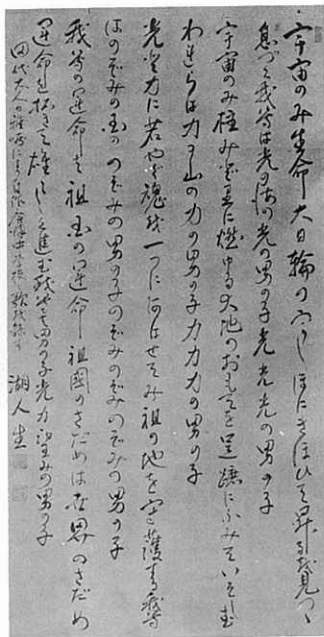
展示の第1部門は「佐賀県教育の歩み」を主題として、藩政時代から新教育制度の発足までの期間を5期に分けて展示する。

①「近代教育の夜明け前」では、弘道館をはじめ各藩校関係や正司考撰等の私塾及び寺子屋資料。②「近代教育の出発」では、学制発布資料をはじめ各学校の設立願いや古い学籍簿等。③「教育制度の整備と発展」では、教育勅語をはじめ修身教育関係資料から明治時代の校訓、旧制中学校の入試心得、入学願等。④「戦時体制と教育」では、少年団の奉仕活動に関する資料や学徒動員関係資料。⑤「新しい教育制度の出発」では、連合軍指令関係や新制中学校設立関係資料等。また、明治初期からの教科書を体系的に展示する。

第2部門は「学校教育100年の歩み」を主題に昨年開校100年を迎えた有田小学校の100年の歩みを物語る具

体的な資料を展示する。

第3部門は「ふるさとの学び舎」を主題に旧制佐高資料や学校備品、設備等を、第4部門の「児童史」では、明治・大正・昭和にわたる生徒作品や遊び用具、証書類を、第5部門の「教育に尽した人々」では、本県出身の大木喬任や大隈重信など8名の教育者の資料を展示する。



下村胡人作、旧唐津中学校・校歌(自筆)

この資料展にあたって、国会図書館の大木喬任文書やこれまで未発表の数々の新資料をご出品いただいた方々にお礼を申し上げるとともに県民各位のご協力をお願いしたい。

なお、翌1月13日(土)佐賀大学助教授、文学博士 杉谷 昭氏の「教育100年をめぐる佐賀の教育」について特別講演会を予定している。

(資料係長 尾形 善郎)

県内博物館案内

その4

小笠原記念館



支 関

- 1、所在地 唐津市西寺町 近松寺境内・TEL呼出唐津局 2-3597
- 2、交通の便・唐津駅より西へ徒歩約10分
- 3、休館日・12月29日～31日
- 4、入館料・無料
- 5、設立年月日 昭和32年4月1日
- 6、管理者・唐津市
- 7、設立の経過と特色

郷土の記念館として、その建設資金は旧小笠原藩関係有志の寄付行為によって賄われ、理事長に金子道雄氏を推し、運営は常安弘通氏が当たってきたが、昭和42年から唐津市に移管されるようになり、唐津城管理事務所の分館として再発足し、新たに近松寺住職との間に管理委託契約がなされ、毎日の開館、閉館、管理は現在住職夫人が当たっている。

展示品は、旧藩主小笠原家の秘蔵家宝及び近代日本の黎明期に文運興隆に貢献した郷土の先覚に因む記念品等を中心に常設展を行っている。なお、

郷土資料に関して、唐津城に保管中の資料の中から随時入替えの予定である。

8、施設の規模と特色

近松寺境内の西北隅にあった小笠原家廟所約 300坪を改装して、建坪55坪のうちに展示室30坪と談話室20坪を

調和させているが、設計は早稲田大学教授今井兼次氏、施工は竹中工務店である。日本建築様式を摂取した耐火耐震の鉄筋コンクリート造りで、近松寺の大本堂や茶庭とマッチした建物である。

9、主な資料紹介

- 今上陛下ご幼少時代の御着衣……小笠原長生公が、陛下の学習院、東宮御学問所時代の教師であったため、記念に拝領したもの。
- 織田信長の書簡（巻物）
- 徳川三代将軍家光の書
- 川村清雄画伯油絵、「御所車」 100号明治初期

○奥村五百子刀自の遺影、遺品……愛国婦人会の創設に献身した郷土出身女傑の活躍のあとを偲ぶもの。

○郷土に関係ある先覚者の遺影

- 高橋是清翁（元大蔵大臣、唐津英語学校教師）
- 天野為之博士（経済学の先駆者、元早稲田大学学長）
- 辰野金吾博士（近代建築学の先達）
- 曾弥達蔵博士（ " " ）
- 掛下重次郎翁（元大審院判事）

（久保 儀市）



展 示 室

博物館日誌

- 8月22日 博物館協議会開催（応接室）
県内離島中学生 169名館内見学。
山口亮一画業展実行委員会（中展示室）
- 8月25日 「土生・久蘇遺跡資料展」終了
- 8月26日 職員異動発令
- 8月31日 山口亮一画業展実行委員会（中展示室）
- 9月6日 「山口亮一画業展」開場式 山口三千也氏、中島快彦氏夫妻来館
- 福岡県文化会館長 瓜生二成氏、長崎県立美術博物館長松尾哲男氏来館
- 9月7日 奥平 潤氏、沖繩産の「厨子ガメ」寄贈
- 9月11日 河村竜夫氏来館
- 9月12日 森一郎氏より 楠苗の寄贈を受ける。
- 9月13日 学制発布 100年教育資料展展示協力委員会（応接室）
- 9月15日 山口亮一画業展終了（総入場者 3,834名）
- 9月16日 明治大学、大塚初重教授、小林三郎講師来

- 館。
- 9月23日 「理科作品展」（佐賀市支部展開催、9月26日まで、通算 2,031名入場）
- 9月28日 「理科作品展」（佐賀県展開催、10月4日まで、通算 4,464名入場）
- 県理科作品展表彰式（大展示室）
- 10月2日 下村田人生家復原落成式（館長出席）
- 10月10日 「蒼海・梧竹展」開場式
千葉大学教授高沢武雄氏「蒼海・梧竹展」観覧のため来館、中林健二氏夫妻来館
蒼海・梧竹展座談会（応接室）
- 10月11日 小野田セメント社長森清治氏「蒼海・梧竹展」観覧のため来館
- 10月12日 住友軽金属工業社長田中孝雄氏「蒼海・梧竹展」観覧のため来館
- 10月14日 第8回博物館研究講座「蒼海・梧竹の書について—その鑑賞—」
講師 佐賀大学助教授 土肥植利氏
- 10月16日 「斎藤茂吉の書」の著者山上次郎氏「蒼海・梧竹展」観覧のため愛媛県から来館

行事お知らせ

ジェームズ・アンソール展	11・14 ▼ 12・3	火 ▼ 日	9・00 ▼ 17.00	ベルギーが生んだ、近代絵画の巨匠ジェームズ・アンソールの作品で油彩、水彩、デッサン、彫刻等 155点を集めたアンソールの芸術の全貌を紹介する。	研究講座	1・13	土	14.00 ▼ 16.00	学制 100年をめぐる佐賀の教育 佐賀大学教育学部助教授 桂裕 昭氏 (総務課 無料)
第22回 県展	11・18 ▼ 11・26	土 ▼ 日	9・00 ▼ 17.00	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・版画・写真・美術の7部門について県内から公募した入選作品と招待作家作品、審査委員作品、本年度無鑑査作品など約 400点を展示する。	佐賀県立図書館 新館建設10周年記念 日本と肥前を結ぶ古絵地図展	1・25 ▼ 2・13	木 ▼ 火	9・00 ▼ 16.30	県立図書館が所蔵する世界地図を始め、日本全国、都道府県から沖縄まで日本各地の古絵地図の集大成である。都府の国絵図を中心とするが、鍋島藩が、肥前のみでなく、日本全土に眼を向け、収集した貴重な資料として注目されている100点点を展示する。
学制発布 100年記念 教育資料展	12・2 ▼ 1・18	土 ▼ 木	9・00 ▼ 16.30	明治時代の藩校、私塾、寺子屋期間の教育資料をはじめ、昭和22年の新教育制度発足にいたるまでの学校教育資料を展示し、教育改革の歩みと実績を顧み、本県教育の向上発展を期す。	休館	2・14 ▼ 2・19	水 ▼ 月		
佐賀県高等学校美術展	12・5 ▼ 12・10	火 ▼ 日	9・00 ▼ 16.30	県内高等学校から出品した絵画、デザイン・彫刻の部門における高等学校生の作品を展示する。	常設展 郷土の歴史と文化	2・20 ▼ 3・31	火 ▼ 土	9・00 ▼ 16.30	佐賀県と地質時代から現代までの自然史資料を考古・歴史・美術・生物の歴史と文化の統合的に展示して本県の歴史と文化の特質の理解に資する。
休館	12・27 ▼ 1・4	木 ▼ 木							

◎ 職員異動 (8月26日付)

○転入

- 副館長 藤光辰次 (学校教育課長補佐より昇任)
学芸課普及係主事 齋成昭道 (三神教育事務所主事より)
総務課庶務係主事 小林静枝 (教職員課福利係主事より)

○転出

- 佐賀県教育委員会 文化財調査監 木下之治 (副館長より)
社会教育課青少年係、社会教育主事 堤 清雄 (学芸課普及係、学芸員より)
教職員課給付係、主事 吉田宣之 (総務課主事より)
文化課文化財係、社会教育主事 木下 巧 (学芸課資料係、学芸員より)

○館内異動 (昇任)

学芸課長、兼学芸課普及係長事務取扱 手塚静雄 (学芸課資料係長より)

学芸課資料係長 尾形善郎 (学芸課資料係より)

○兼務

- 学芸課資料係、学芸員 木下 巧 (文化課文化財係、社会教育主事)
文化課、文化財係、社会教育主事 森 醇一郎 (学芸課資料係、学芸員)

博物館報	第 11 号
発行年月日	昭和 47 年 11 月 1 日
編集	古 賀 秀 男
発行	佐賀市城内一丁目15-23 佐賀県立博物館
印刷	佐賀印刷社